

あおぞらだより

第118号 (発行/平成25年3月)

特集 : 春の行事

行事

江戸川病院院長 新村ヨシオ



儀礼や催し物などを恒例として執り行うことである。拡大解釈すれば神事や祭典も含まれ、集会や大会そして記念・祝賀から娯楽的なお祭りまで多岐にわたる。勉強会や研修会も同様に扱われるので、地域でも何かは予定されている。行政や民間でも情報提供や啓蒙の目的で企画し、講師依頼や資料作り、会場の確保や運営に精力を費しており、主催者には心身の負担を強いっている。一方で廃れたり、中断する行事もあり寂しい感情を抱いている。それは日本古来のものであり、季節の到来を告げるものでもある。節句や祭祀の主旨を共有し協力しあって一体感を持って準備し、参加する人にも人

に触れることも多く、情緒を育む機会にもなっていた。最近では少子化や余暇の多様化、核家族で個人主義のため、伝統を継承する人が少なくなってきたと聞く。世話役を担ってきた世代の高齢化があり、社会構造の変化も大きく、産業も脆弱化し仕事も後継できる環境にないために、行事も伝承できなくなってきた。

行事は地域性から全国的なものがある。神事的なことと言えば、地域文化から発生した儀式や催し物が全国に波及していった。農村、漁村、山村などから言い伝えられたことが神格化し、神として崇められて、祀られる。神には畏怖の念を持ったり、繁栄、豊作、安寧を願望して祭り上げ、儀式を作り、祝詞をあげるようになったのであろう。神に忠誠を誓い、感謝したり祈願し、崇りには除霊や守護を求めてきた。その儀式を定例化することにより、毎年心が浄化され、活力が湧いてきたと思っている。一方全国的な

(・・・次ページに続きます)

ものになると、やはり仏教文化や中国発祥の文化が武家社会に取り入れられ、庶民に普及したものがある。固定された行事は時を知らせてくれ、季節感を感じるものが多い。自身のように高齢者になると余計に感じるのかもしれない。

行事は節目にもなり、心機一転する契機に利用されることがあった。自身は一年の計は元旦にあると今年こそはと課題や目標を掲げるが、三日坊主となることが多く後悔するのだが、「よし、月が変わったら・・・2月から、立春から、3月から、雛祭りら・・・」と思い直したことを想起した。結局は達成できず、年末に総括することになるのだが、同じ事を繰り返す少年時代であった。祖母は文学好きだったこともあり、とりわけ日本の行事には忠実で、七草粥、鏡開き、節分、雛祭りなどには関心が高く、毎年説明を受けていたのですんなり馴染めていた。高度成長期とともに自身も変化し、行事よりも余暇に夢中になってしまい、無関心に近かった。子どもを得てからは日本文化の継承も考え、神仏事や節句などの行事は続けてきた。しかし、子どもには親が期待した程は記憶に残ってなさそうで不安を感じている。

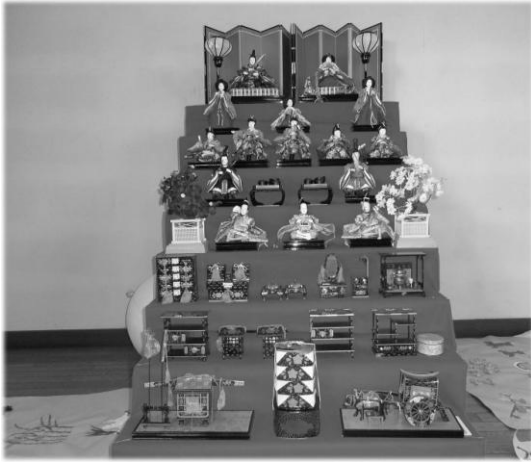
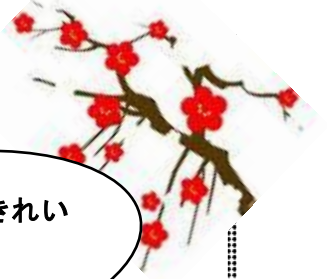
行事は時代と共に消滅していくと思われる。地域は限界集落と言われ、少子化もあって、行事は中止となってしまう。村おこしと言っても行事を企画する人材が不在とのこと。無形文化財も後継者不足で成り立たない。実際に経費がかかるだけで、経済的効果はない。やはり行事は商業に直結しないと継続しないのか。報道でも日本古来の行事には冷たく、過去にはなかったバレンタインデーが商戦として取り上げ、由来まで説明されている。大型連休はゴールデンウィークと称し、3月の雛祭りや5月の端午の節句などは影が薄くなっている。

核家族で家も狭く、人形を飾る場所もないと揶揄する輩もいるが、小さくても子どもの成長を祝うことができるし、情緒教育にもなると思う。こんな事を言っていると世界の基準から取り残されてしまうのか。グローバル化しているのだから日本の文化は通用しないし、かえって足手まといになってくると割り切るべきなのか。とにかく消滅は残念である。西洋化もよいが、日本人の心が崩壊しそうで恐怖である。

3 - 2 病棟玄関



春爛漫



ひまわり棟に雛壇を飾りました

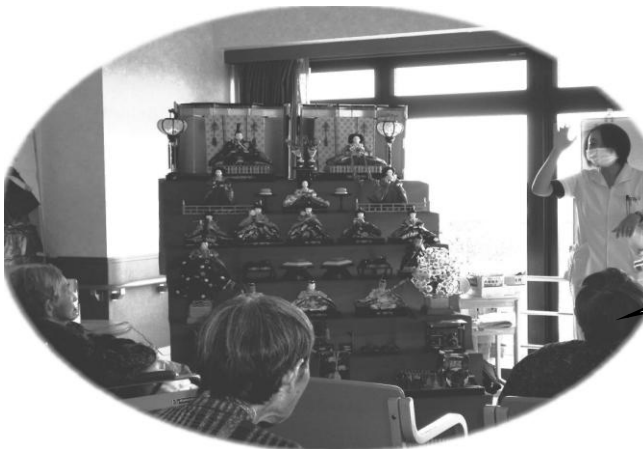
わたしたち、きれいで
しょう？



2-2病棟



春爛漫の午後、梅の花を褒めにお庭を散歩しました。当院院庭にて



桃源では、青空とお雛様
を見ながら、午前中の活
動に皆さん精を出して
います。

また、お雛祭りの日に
は、甘酒とココアでお祝
いたしました。

デイケアでは、お雛祭りの日にお茶事に挑戦しまし



うーん、
おいそう、
早く食べたい

皆さん、とても真剣です



江戸川病院 3月行事予定 誕生会

D棟	3月23日(土) 14:00~	D棟訓練室
E棟	3月23日(土) 14:00~	6Fホール
1棟	3月26日(火) 14:00~	病棟
2-1棟	3月30日(火) 10:00~	病棟
3-2棟	3月27日(水) 14:00~	外出
2-2棟	3月25日(月) 14:00~	病棟

* さくらんぼシアター 3月12日(火) 14:00~ ひまわり

編集後記

今月号は、写真を中心にお送りいたしました。皆様に、日ごろの当院の季節を取り入れた行事、またさりげない毎日の中での職員の取り組みを感じて頂けたら幸いです。

患者様にも春の息吹は心に光を呼び込むのではないのでしょうか。

啓蟄を過ぎ、暖かさにほっとする毎日となりましたが、まだまだ三寒四温、気温も天候も

安定はいたしません。どうか皆様も体調に気を付けてお過ごしくださいませ。職員一同、体調管理に留意し、患者様に本格的な春をおとどけますように努力してまい

『あおぞらだより』に関するご意見・
ご感想・ご投稿などは『医療相談室』
までお寄せ下さい。(内線 292・238)

医療法人社団 全生会 江戸川病院
〒278-0022 千葉県野田市山崎2702
電話 04-7124-5511 (代)
<http://www.edogawa-hp.com>